

## ボランティアの心

### 野鳥と人との共生を願って

野鳥たちはCO2を吸収する樹の葉を食べる昆虫を餌として樹を守り、その実を食べてタネをばら撒き、森を広げ、地球温暖化防止面で私達を助けてくれている。

私は小学生の頃、郷里の四国で今は捕獲も飼育も禁止されたメジロを捕獲しその可愛い姿と美しい“さえずり”を楽しんでいた。森の中で“おとり”に誘われてメジロがトリモチに近付くと心臓が高鳴ったことを今でも鮮明に思い出す。

その後多忙で野鳥から遠ざかっていたが、KSC入学後「野鳥と自然観察会」に入会し野鳥との縁が復活。KSCでは先輩達の指導や野鳥図鑑や外部専門家などを通じ野鳥のことを学び直し、少しでも”野鳥の心“に近付くよう努めている。生環のグループ学習時の2005年にしあわせの村で仲間と始めた巣箱と植樹によるささやかな野鳥の保護活動は新

しい仲間も加わり8年経つ。

その巣箱から毎年130-180羽のシジュウカラやヤマガラ等のヒナが巣立つが、翌春までの生存率は10%未満と厳しい。3-6月、親鳥が休むこと



なくヒナに餌を運ぶ姿や外敵に気付かれないようヒナのフンを巣箱から離れた場所へ捨てに行く親鳥の愛情にはいつも感動している。晩秋に行う巣箱の掃除の際に取り出す巣も見事。まるで芸術作品のようだ。昨年からは村内でヒナへの足環装着（外部資格者による）を始めたが、留鳥のシジュウカラだけでなく、渡り鳥のキビタキへも広げ、移動範囲など詳しい生態の解明にも繋げたい。

またトリム園地の植樹18種650本も根を深く張り自立しつつあるので、餌の少ない冬期には野鳥のレストランとなるように願っている。野鳥と人との共生を願って！ 茅中英一（生環11、西区会）

## 10年目を迎える未来館

こうべ環境未来館は24年度もほぼ例年なみの活動を続け、来館者にも好評だ。「くらしとごみ」の学習には毎年、約30校が来館。2000人の小学生がゴミのリサイクルなどを学んでいる。

ビオトープ「未来の泉」と、近くの里山を組み込んだ自然体験学習には、23年度で2校113人、24年度

で5校298人の利用があった。小さな生き物や草木に触れ、体感し、生物の多様性と保全の大切さを考えるとともに、地域の歴史や文化・生活習慣を学んでいる。このほか、小学校の副読本「くらしのエコチェック」による温暖化防止、ごみ、3R、資源化等の啓発を支援しており、70校・3738人の児童が参加した。

未来館は今年で10年目を迎える。契約の関係で「エコチャレンジ」の催しから撤退、メンバーも18人体制となった。開館時の意義を再確認し、地域の人々の支援を得ながら、子どもたちの環境学習の拠点として、新たな出発をしたいと考えている。

（環境未来館：石谷完）

### ♪男声合唱団が台湾遠征♪

男声合唱団（指揮者・小埜直）は3月28日から4月1日まで総勢31人で台湾へ遠征。台南と台北で現地のシルバー合唱団などと親善コンサートを開きました。28日は関空から台湾へ。台南に宿泊。29日は体育館で開かれた歓迎宴に招かれ、小学生や老齢合唱団と交流演奏会。「ふるさと」を一緒に歌い、市長も顔を見せてくれました。30日は女子中学校で2つの合唱団と共演。31日は台北へ移動し、同夜、中山堂（公会堂）で、生け花グループがつくる女声合唱団と交流演奏会をして、散会しました。

メンバーの小畑浩昭さんは「一度は海外で歌いたいという願いがかなった。八田譽一記念館や故宮博物館も見学できた」と嬉しそうでした。

### 神戸国際交流フェアー

神戸国際協力交流センター主催の「国際交流フェアー」が3月16・17日に開かれ国際部会から4人が参加しました。16日は留学生によるスピーチ大会（勤労会館）。アメリカ、カナダ、中国、インドネシアなどの8人が自国文化と日本での異文化体験を発表しました。17日はハーバーランドのスペースシアターでお国自慢のパフォーマンス。模擬店ではマンマコーヒー、インドネシアのシューマイ、フィリピンどんぶりなどが販売され賑わいました。国際部会はパネル展示をしました。尖閣も竹島もない友好的な集まりでした。

（柳川瀬淳一）